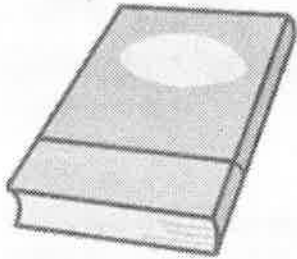




## 一冊の本との出会い

校長 長谷川 利恵



フリージャーナリストの池上彰さんは、小学校6年生のときに「続 地方記者」という本を自分のお小遣いで買って読んだそうです。そして、その本に登場する新聞記者たちの仕事ぶりや活躍ぶりに心をひきつけられ、「将来は、地方で働く新聞記者になろう。」と決意したそうです。

その後、池上さんはNHKの記者になり、現在ではテレビでも大活躍のフリージャーナリストとなったわけですが、そのきっかけは一冊の本との出会いだったのです。まさに、一冊の本との出会いが人生を変えたというわけです。

私たちが自ら体験して知ることには限界があります。限られた時間のなかで全てを体験することは不可能です。しかし、本を読むことで、自分が知らない世界をまるで目の前で見たかのように知ることができます。私も、本からどれだけたくさんのことを学んだらいいかと思っています。



インターネットが普及している今は、知りたいことを検索すればすぐに出てきます。だから、わざわざ本を読む必要はないのではないかという人もいます。確かに、本で調べるとなると時間も労力もたくさんかかるでしょう。この本は自分の知りたいことが書いてあるに違いないと思って読んでみたら、関係ないことが書かれていたり、やけに難しく書かれていたりして、結局知りたかったことはたった一行だったということは何回もありました。逆に、予想していた以上のことが書かれていたり、思いもしなかったことが書かれていたりして、それがとてもおもしろかったり、興味深かったりしたこともありました。私は、それこそが読書の楽しみではないかと思っています。インターネットでさっと調べるのとは違う、「寄り道」のおもしろさがそこにはあるのではないのでしょうか。

また、本のなかの登場人物と一緒にドキドキしたり泣いたり笑ったりすることで、私たちは心を揺さぶられます。その「揺さぶり」が私たちの心を耕します。心が耕され、いつの間にか、自分や相手の気持ちを感じとる力が育っているのです。それも読書の素晴らしいところだと思います。

一冊の本との出会いが、人生を変えることがあります。  
一冊の本を手にするだけで、未来が拓けることがあります。  
季節は秋。暑くも寒くもない、読書するにはちょうどいい季節です。  
あなただけの一冊を探してみませんか。

